

福山市ひきこもりに関するアンケート調査の調査結果等について

2022 年(令和 4 年)7 月
福山市保健部健康推進課

1 調査の手法・目的

本市におけるひきこもり状態にある人の実態を調査し、地域における実態を把握することで、今後のひきこもり対策の基礎資料とすることを目的に市内の民生・児童委員の御協力を得て、担当地区において把握している情報をアンケートに回答していただく手法により実施した。

2 ひきこもりの定義

この調査では、次に該当する人を「ひきこもり」とする。

(1) 15 歳から 64 歳までの次のいずれかに該当する人

- ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに 6 か月以上続けて自宅にひきこもっている状態。
- ② 仕事や学校に行かず、時々買い物などで外出することはあるが、6 か月以上続けて家族以外の人と交流がない。

(2) 上記に準じ、無業者など民生・児童委員の皆様からみて心配な人、また家族等から支援について相談があった人

※ただし、重度の障がいや病気などで外出できない人は除く。

3 調査の基準

2021 年(令和 3 年)11 月時点

4 調査方法

市内の民生委員・児童委員 887 人に対する調査票の配付・回収を行った。

5 回収結果

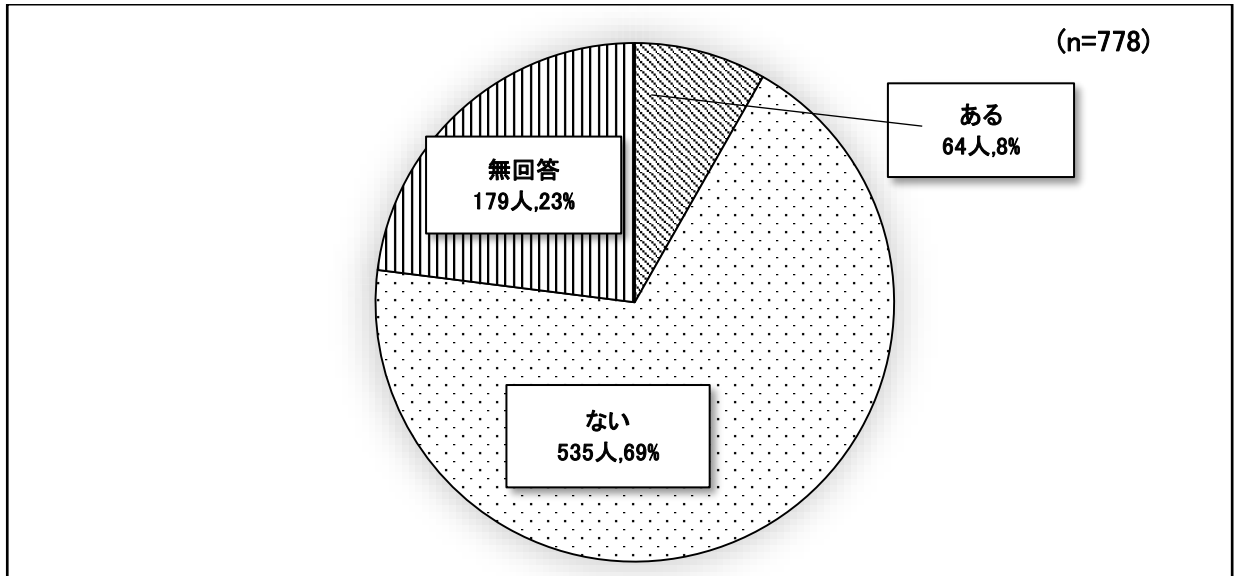
回答者 778 人 (回収率 88%)

6 調査結果

(1)ひきこもりの相談について

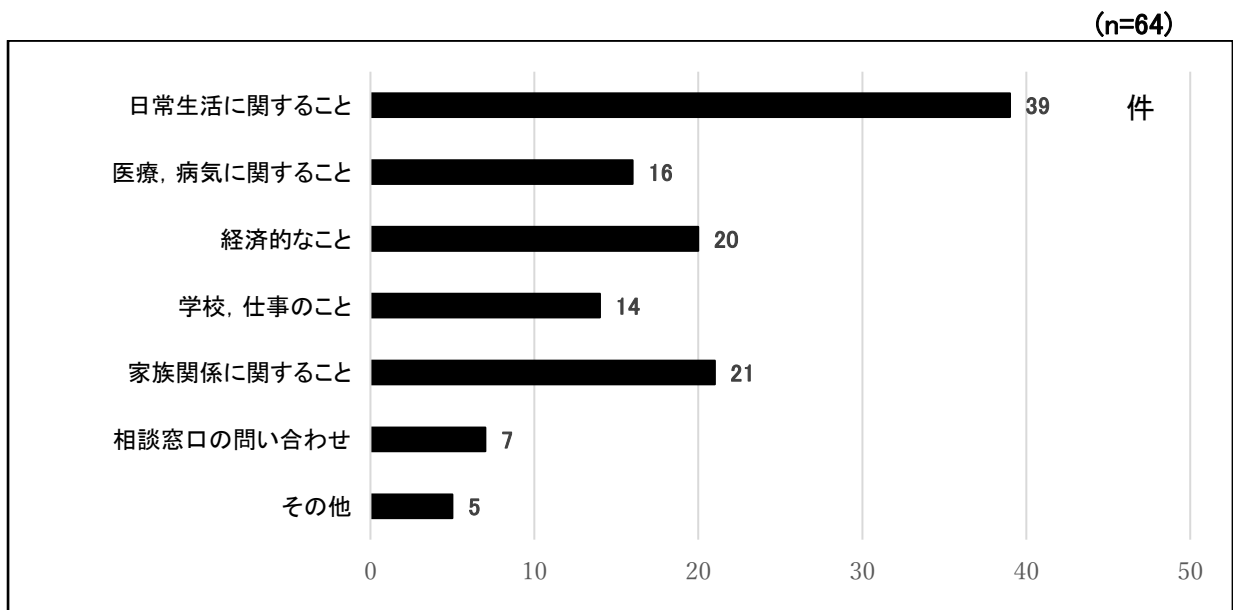
ア 担当地区での「ひきこもり」に関する相談の有無（全員，単数回答）

「ひきこもり」に関する相談を受けたことがある民生・児童委員は 8%であった。

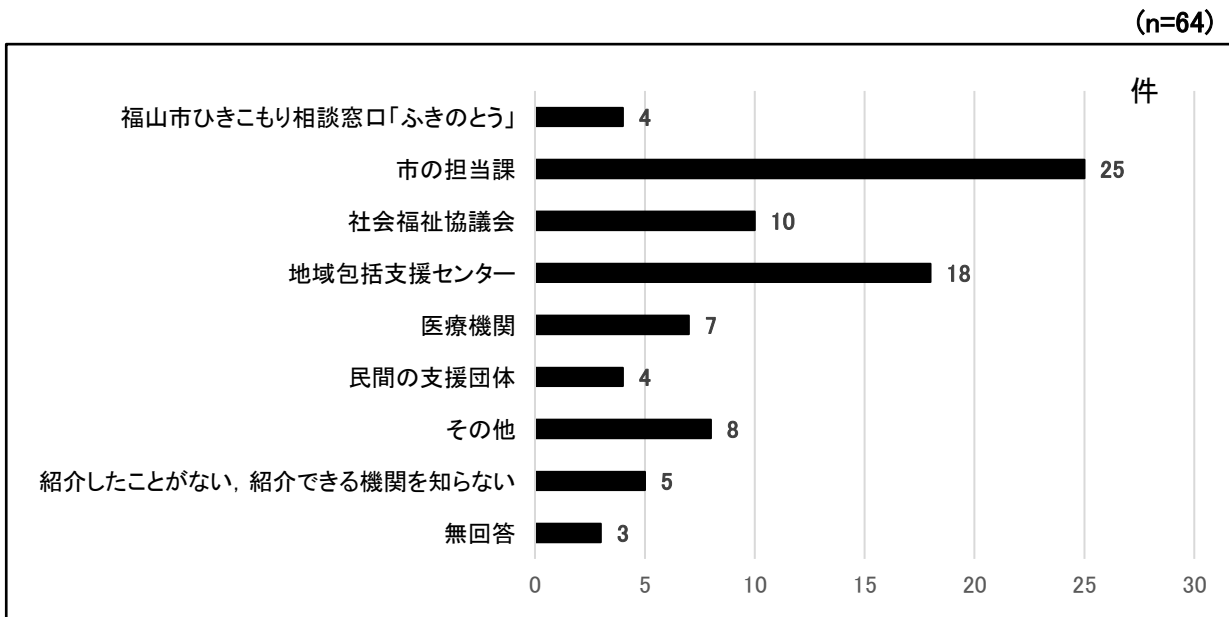


イ 相談内容（相談を受けたことがある人のみ，複数回答）

相談を受けたことがある民生・児童委員 64 人のうち，相談内容として最も多かったのは，「日常生活に関すること」が最も多く，次いで，「家族関係に関すること」「経済的なこと」であった。

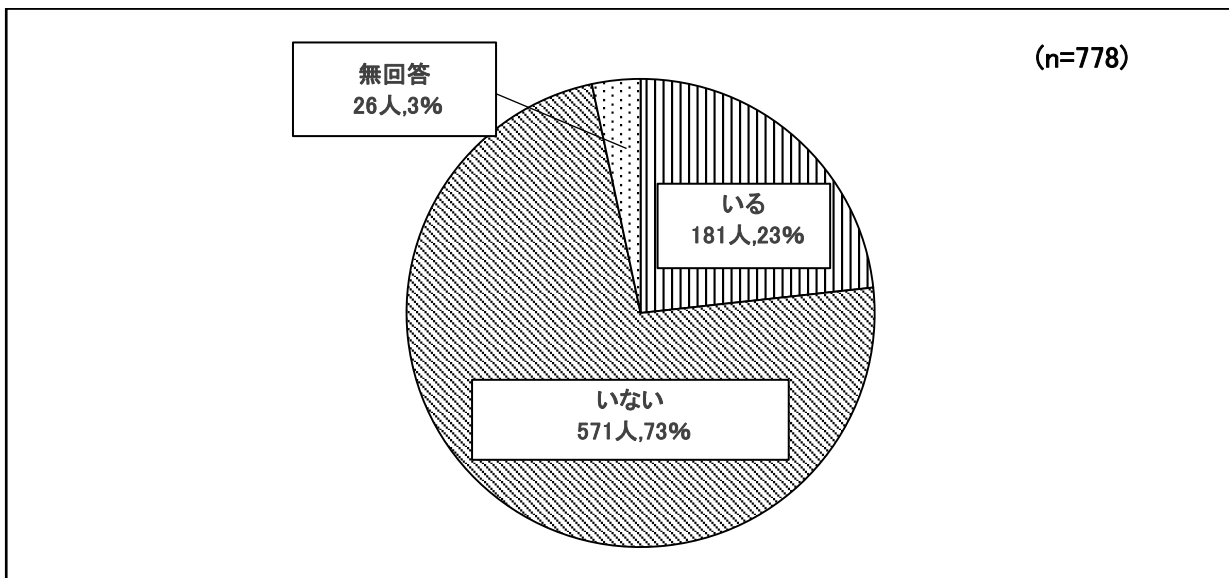


ウ 相談・関係機関の紹介または利用先について（相談を受けたことがある人のみ，複数回答）
 紹介または利用先として「市の担当課」が最も多く，次いで「地域包括支援センター」であった。



(2) 担当地区でのひきこもり状態の人の有無について（全員，単数回答）

担当地区で「ひきこもり状態の人」が「いる」と回答した民生・児童委員は 181 人(23%)であった。
 181 人の民生・児童委員が把握している「ひきこもり状態の人」は，317 人であった。

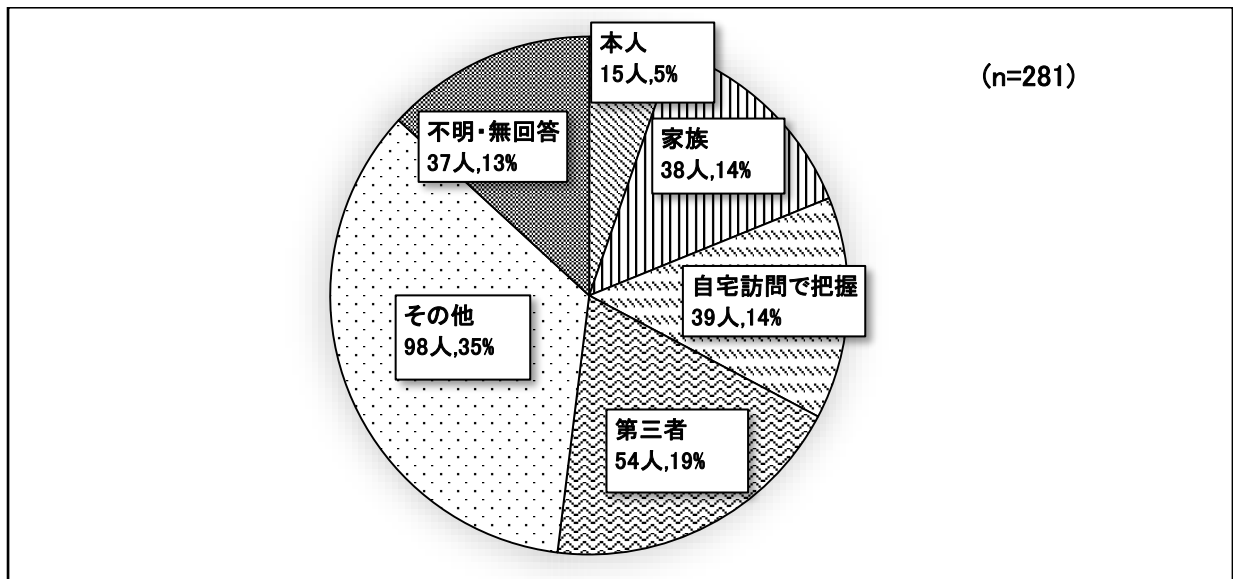


(3)ひきこもり状態の人の状況について

民生・児童委員が把握している「ひきこもり状態の人」317人のうち、詳細な生活状況を把握できている人は281人であった。以下、ア～キは、把握できている281人についての回答である。

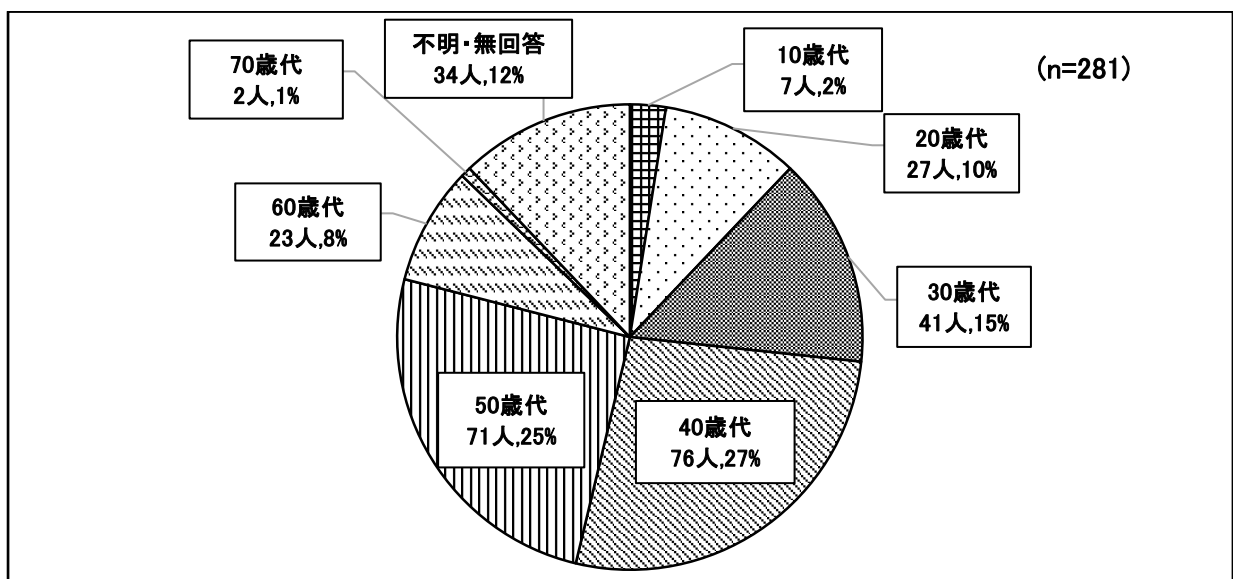
ア 把握経路（単数回答）

「第三者からの相談」が19%と最も多く、「その他」の回答には「家族の話の中で把握した」「相談を受けていないが、地域活動の中で把握している」等があった。

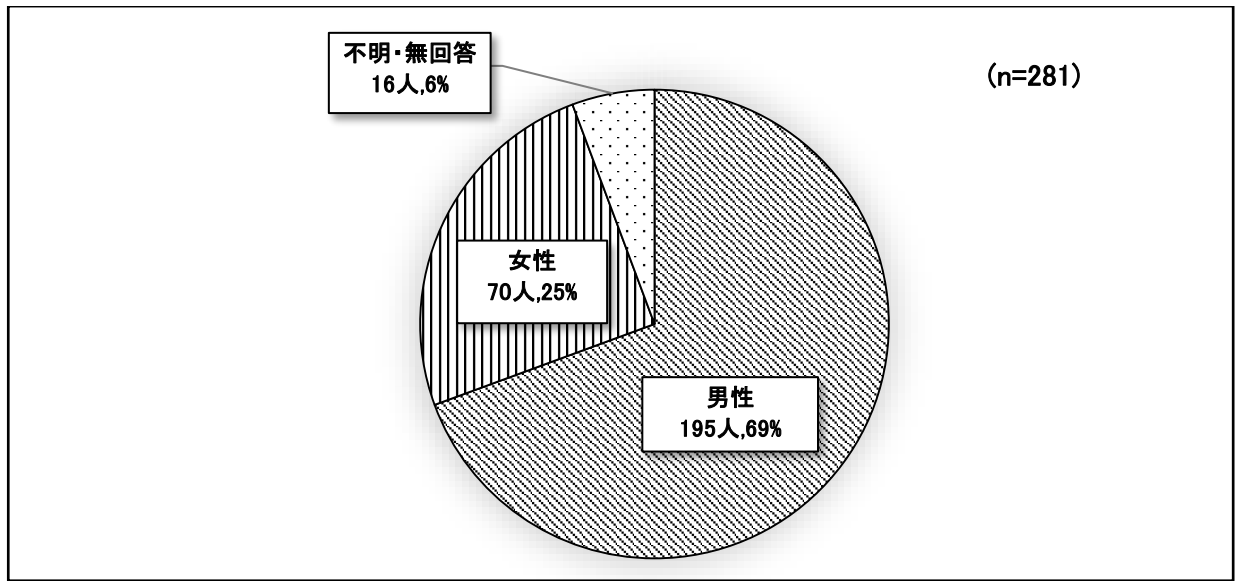


イ 年齢及び性別（単数回答）

年齢別では40歳代が27%と最も多く、次いで50歳代が25%であり、40歳以上が全体の半数を超える。



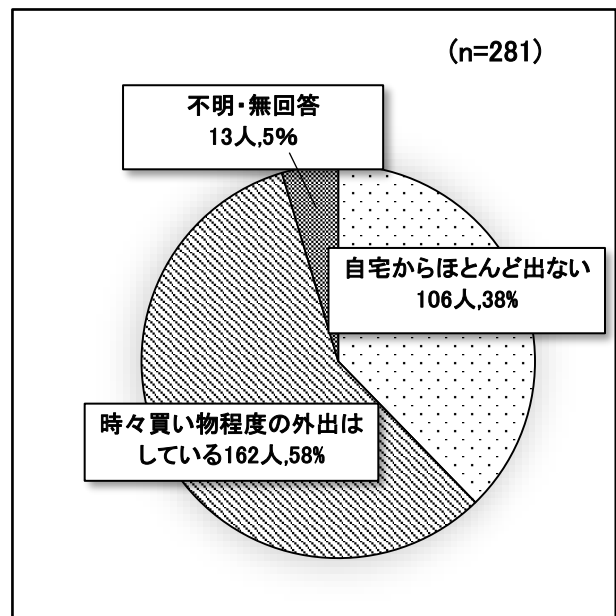
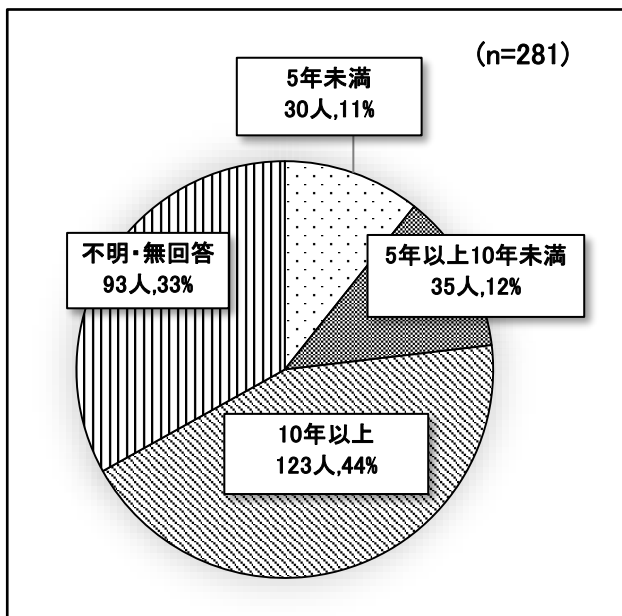
性別では、男性が69%、女性が25%であった。



ウ ひきこもり状態の期間と状況（単数回答）

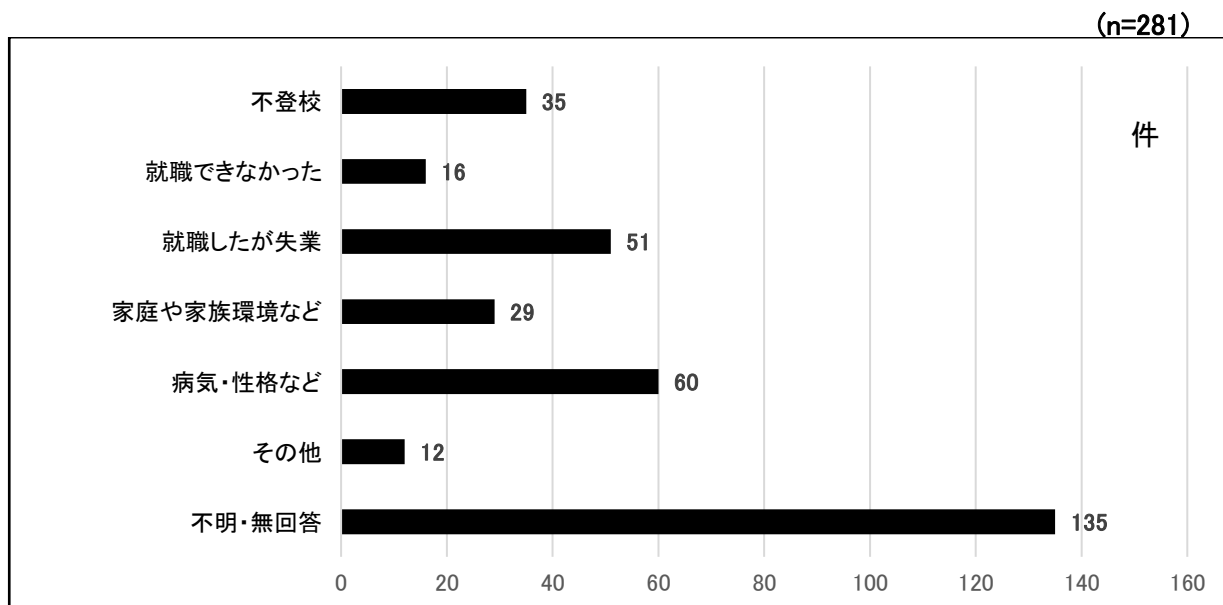
期間は、「10年以上」の人が44%と最も多かった。

状況は、「時々買い物程度の外出はしている」に該当する人が58%で半数を超える。



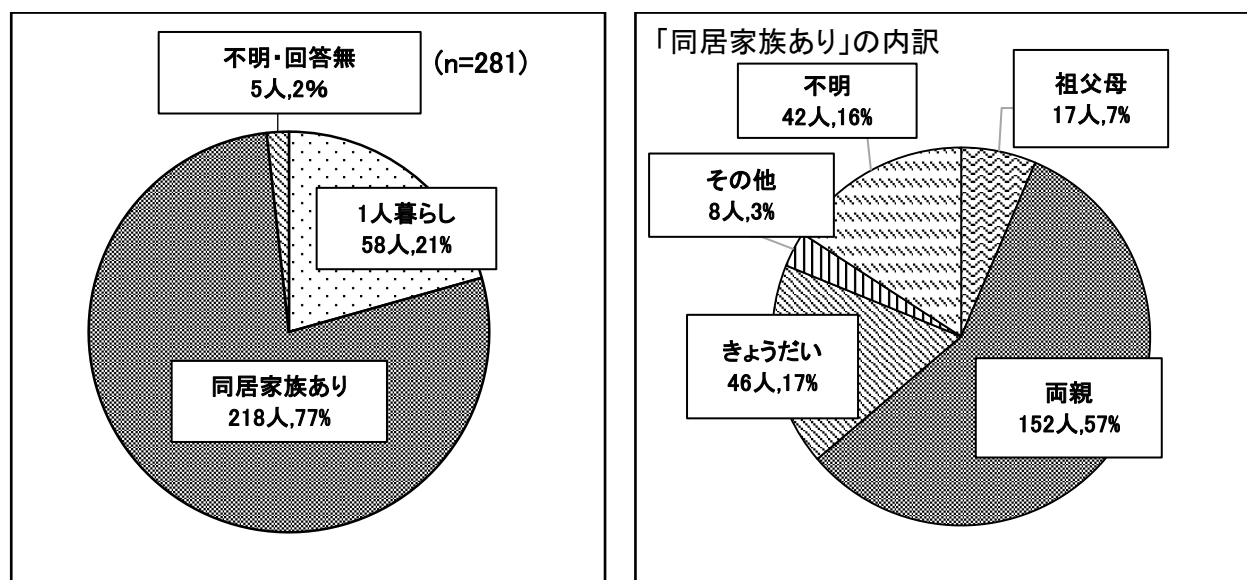
エ ひきこもり状態に至った経緯（複数回答）

ひきこもり状態に至った経緯は、「不明・無回答」が最も多かったが、次いで「病気・性格など」、「就職したが失業」が多かった。複数回答が多く、経緯は複雑であることがわかった。



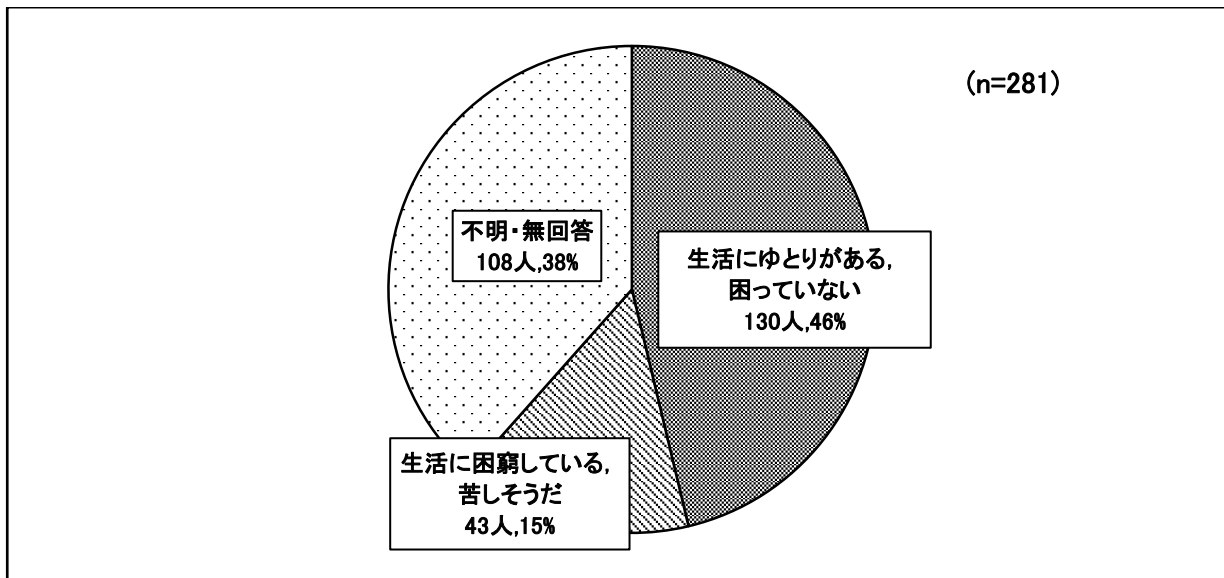
オ 家族構成（単数回答, 内訳については複数回答）

家族と同居している人が 77%と最も多く、そのうち両親と同居している人が 57%であった。



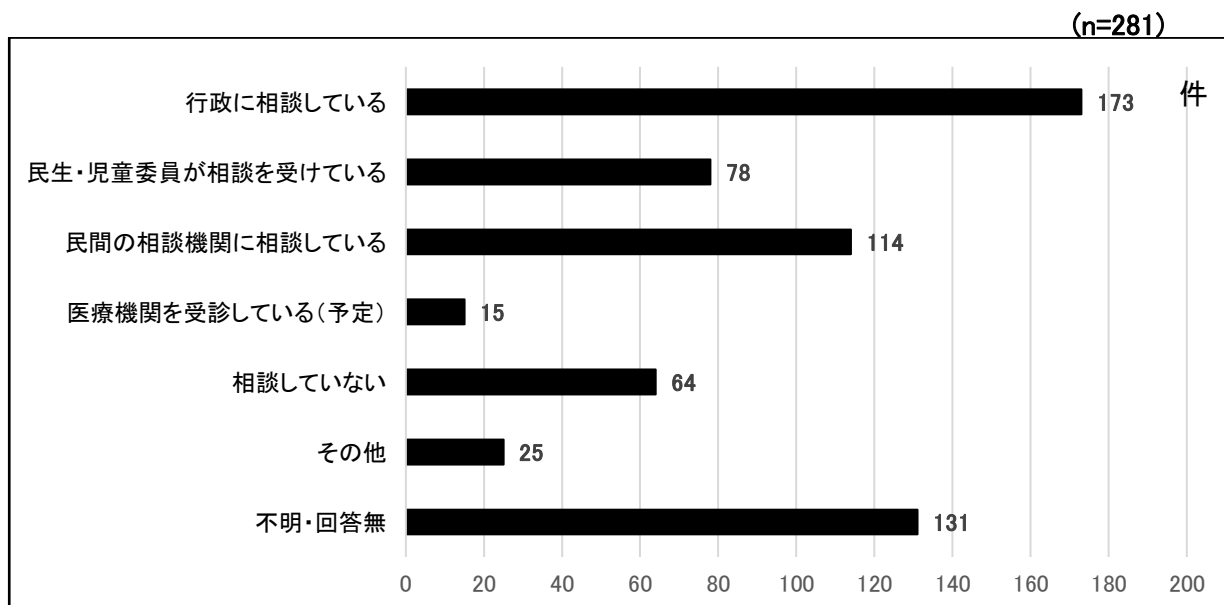
カ 生活状況（単数回答）

生活状況については、「生活にゆとりがある，困っていない」が46%であった。



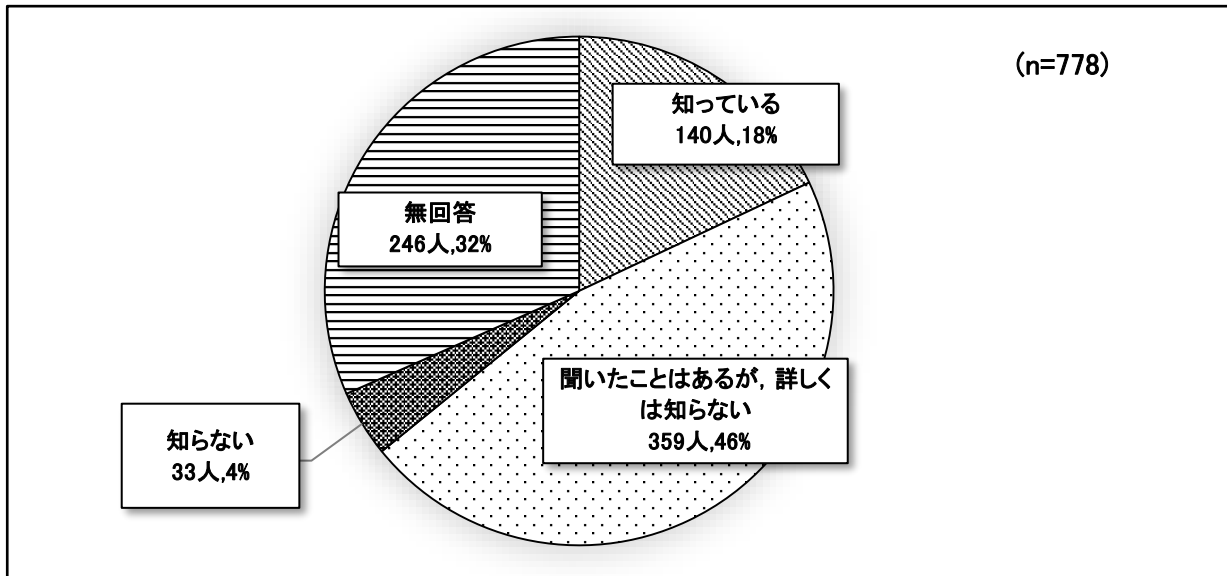
キ 現在の状況（複数回答）

「行政に相談している」が173件で最も多かった。「不明・無回答」は131件、「相談していない」は64件であった。



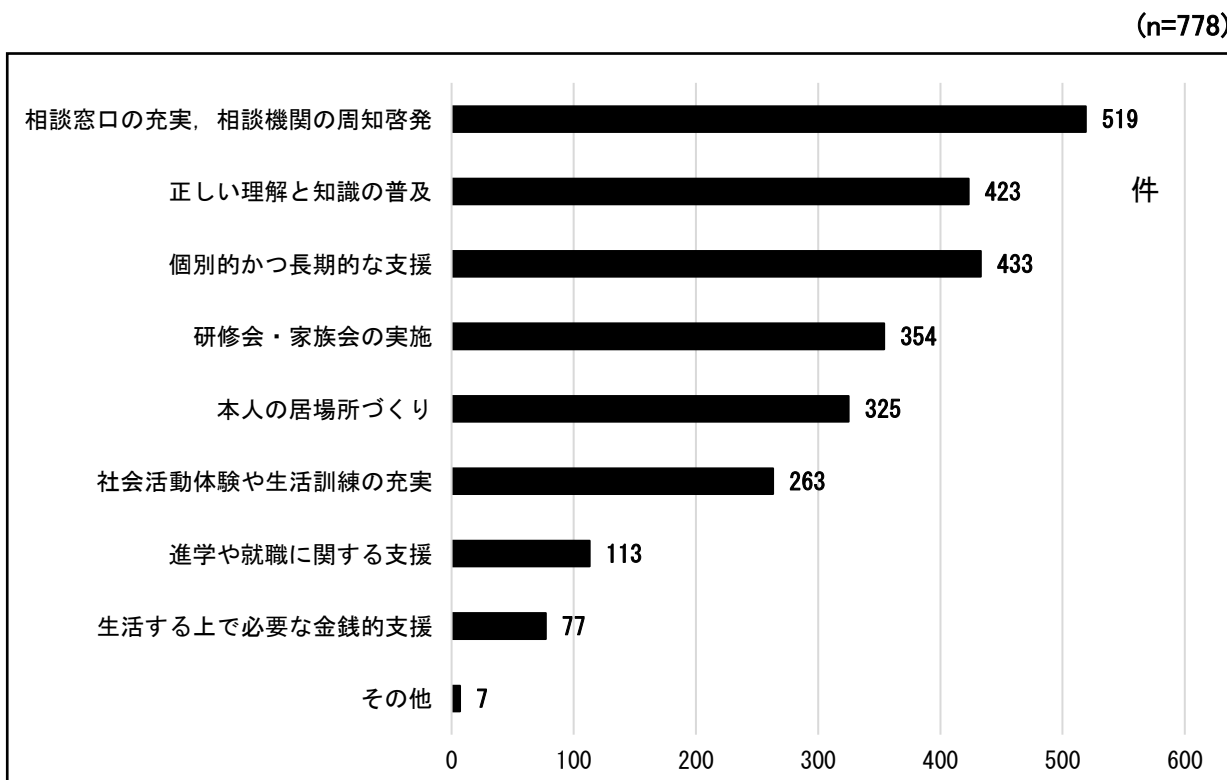
(4) 福山市ひきこもり相談窓口「ふきのとう」の認知度について（全員，単数回答）

相談窓口について、「知っている」と回答した人は 18%、「聞いたことはあるが，詳しくは知らない。」と回答した人は 46%であった。



(5) ひきこもりに関する必要な支援策について（全員，複数回答）

「相談窓口の充実・相談機関の周知・啓発」が 519 件と最も多く，次いで「個別的就業支援」433 件，「正しい理解と知識の普及」423 件であった。



(6) その他自由意見について(全員, 記述による回答)

自由意見は 184 件寄せられた。自由意見を大きく 6 つに分類し, 一部抜粋した。

分類	件数	一部抜粋した意見
可能な活動	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での見守りを続ける。 ・家族の方から相談があればまずは話を聞き, 行政の相談窓口を紹介したい。 ・相談窓口につなげる。
要望	14 件	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな支援が受けられるのか, 支援団体を知りたい。 ・つなぎ先や対応の注意点など負担にならない範囲で勉強会があるとよい。 ・相談を受けた時の対応方法を教えてほしい。 ・ひきこもりから社会復帰した人などの体験談を知りたい。 ・行政や学校からひきこもりや不登校についての情報が欲しい。
相談窓口	9 件	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと相談窓口(ふきのとう)について周知してほしい。充実させてほしい。 ・ひきこもり状態の方や家族の方が少しでも気になることがあれば気軽に相談できる様にしたり, 広報活動をもっとしたほうがよい。 ・家族が相談しやすい雰囲気を作ってほしい。 ・相談日も平日や時間の制約がされずに, 専門家にいつでも対応できるようにしてほしい。
支援に関する こと	33 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり状態になった方の心のケア, 自分の心の内面を見つめ直す事も大切。家族も苦しいですが「一番苦しんでいるのは本人だ」ということを忘れてはならない。 ・色々事情を考えて支援することが重要と思う。「常識」の押しつけは絶対に避けるべき。 ・民生委員だけではなく近所の方などで, 見守り支援・声かけのできる体制づくりが必要。 ・ひきこもりの人が社会とつながりを持てる居場所づくりが必要。 ・気軽に社会参加ができるようなボランティア活動の場の提供をしてほしい。 ・インターネットを使った情報収集の場を充実させる。 ・継続して支援を受けられるようにしてほしい。 ・長期にひきこもり状態の人には, 金銭的な支援が受けられるようにしてほしい。
ひきこもりの 把握・支援が 難しい	85 件	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの相談がなければ, 支援や把握が難しい。 ・声をかけても家族がひきこもりを「恥ずかしい」「知られたくない」と思っており, 相談するのが難しい。 ・本人に会うことができず, 状況がわからない。訪問しても応答がないので対応ができない。 ・どう支援したらいいのか対処方法がわからない。 ・当事者と家族の関係が難しいため慎重にしないとイケない。
その他	37 件	<ul style="list-style-type: none"> ・接触を望まない方とどうコミュニケーションを図ればよいのか苦慮している。 ・現在は親がおり家庭内は良好な状態でも, 親が亡くなった後のことが心配。

(7) 結果のまとめ

ア 今回の調査でわかったひきこもり状態の人の人数

この調査においては、「ひきこもり状態の人」が 317 人いることが把握できた。

「ひきこもり」について相談を受けたことがある民生・児童委員の中には、直接家族等から相談を受けていなくても、地域活動等で地域に「ひきこもり状態の人」がいることを把握していることがわかった。しかし、「相談を勧めたが(家族に)断られた。」などの意見もあり、家族の中には相談することに抵抗があり、「知られたくない」という思いを持っている家族も少なくなく、この調査だけでは把握できなかった人が多くいると考えられる。

イ ひきこもり状態の人の状況について

年齢は 40 歳以上が半数を超え、男女比は 7:3 であった。期間は 10 年以上が 44%であったことから 20~30 歳代頃からひきこもり状態となり、現在に至っている場合があることが推測される。

ひきこもり状態に至った経緯は、「病気・性格など」「就職したが失業」の順が多いが、複数回答が多く、様々な要因・経緯からひきこもり状態に至っていることがわかった。

また、把握した人の 78%が家族と同居しており、家族が中心となり本人の支援をしていることが推測される。今後、ひきこもり状態が長期化することで、家族の高齢化や生活状況の変化等により心配事や課題が生じてくることが考えられる。

ウ ひきこもり状態の人への支援状況について

「相談していない」「不明・未回答」が多いため、支援状況が把握しにくく、支援につながっていない人が多くいることが考えられる。

(8) 今後の取り組み

ひきこもり支援の更なる推進に向け、ひきこもり状態にある人とその家族を早期発見、早期支援できるよう相談窓口に関する情報発信を強化していく。

また、引き続き、ひきこもりについての正しい理解と対応を啓発していくための市民向けの講演会の開催、相談機関や関係機関など関係者のための研修を企画・実施する。さらに家族教室や家族交流会を開催し、家族が不安や悩みを一人で抱え込むことなく、適切に対応が行えるよう支援を行うとともに、関係機関や支援団体との連携体制を強化していく。